

## 2 児童アンケート集計結果・考察

年度ごとの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合計した割合を示す。

◎は5ポイント以上の増加 ○は5ポイント未満の増加

－は1ポイント未満の増減

△は5ポイント未満の減少 ×は5ポイント以上の減少 を示す。

問1 先生は、毎日の授業をわかりやすく教えてくれている

H30 91.5% R1 94.9% **R2 99.3%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しており、ほとんどの児童がわかりやすい教え方であると認識している。一方で、問2「漢字や計算の力がついてきている」、問3「テストでは、思い通りの点数がとれている」の回答状況と連動しているが、授業はわかりやすいが結果に結びついていないと回答しているのではないかと思われる。

児童が学習に対して意欲をもって臨んでいくために、「わかった」「できるようになった」という達成感や満足感を持たせる授業が行えるよう、さらなる「授業力の向上」に努めたい。

問2 漢字や計算の力がついてきている

H30 92.2% R1 89.7% **R2 93.3%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しており、9割以上の児童は基礎学力の獲得を実感している。今後もわかりやすい授業実践に努めるとともに、さらなる基礎学力の定着を図りたい。

問3 テストでは、思い通りの点数がとれている

H30 72.0% R1 69.1% **R2 76.9%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加しているが、学年によって大きなばらつきがみられる。知識や技能を詰め込むだけの学習で終わらせず、それを活用する力の育成を目ざし、児童が「わかった」「できるようになった」という達成感や満足感を持たせる授業が行えるよう、さらなる「授業力の向上」に努めたい。

問4 進んで運動し、体力づくりをしている

H30 85.2% R1 89.0% **R2 85.0%** (△)

肯定的な回答割合は昨年度より減少しているが、進んで運動する児童とあまり運動しない児童の二極化の傾向がみられる。今年度は感染症対策により学校においても、十分な活動ができたとは言い難い。今後はより一層、体育の授業での運動量の確保や業間休みにおける活動等の充実を図り、体力向上に努めたい。

問5 授業中、人の話を集中して聞いている

H30 89.6% R1 89.0% **R2 94.8%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。充実した学習活動が展開されるためには、その基礎となる「話すこと・聞くこと」の学習態度を確立しなければならない。今後は国語科での学習を基礎としながら、学校教育活動全体の中で、言語活動を意識的に取り入れ、伝え合う力の育成を図りたい。

問6 宿題はきちんとしている

H30 92.9% R1 90.4% **R2 96.2%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。今後も「家庭学習のてびき」、「家でもしっかり学習しよう習慣」を活用し、家庭との連携を図りながら、家庭学習習慣の確立に努めたい。

問7 グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである

H30 82.5% R1 82.4% **R2 91.8%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。一人一人が考え、活動することを基盤に、共に学ぶ楽しさを実感したり、考え活動することで、学び合いの充実を図りたい。

問8 テレビやパソコンを使った学習が好きである

H30 96.5% R1 92.6% **R2 97.0%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。今後も、視聴覚教材や情報機器等の教材、教具を効果的に活用することで、児童の情報活用能力の育成を図りたい。

問9 自分には、よいところがある

H30 83.8% R1 80.9% **R2 82.8%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しているが、学年によって大きなばらつきがみられる。褒める、話しかける、話を聞く、互いに認め合う場面をつくるなど、児童一人一人を大切にされた学級経営に取り組むことで、自己肯定感を高めさせたい。また、規則正しい生活習慣を身につけることは、自己肯定感を育む上で重要であり、様々な遊びや体験活動が重要な役割を果たしており、こうした取組を一層進めていきたい。

問10 先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる

H30 87.5% R1 89.7% **R2 94.7%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加しているが、問9「自分には、よいところがある」の回答状況と連動しており、児童同士を互いに協力させて取り寄せたり、児童が活躍できる場を設定することで、互いに認め合う雰囲気をつくり、自己有用感を高められる取組を図っていきたい。

問11 物事がうまくいかないとき、ねばり強くがんばり続けることができる

H30 86.7% R1 84.6% **R2 89.5%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しているが、学年によって大きなばらつきがみられる。児童の意欲を高める指導と粘る強さを育てる指導を一体的にとらえ、引き続き、様々な体験において成功や失敗の経験と、そのことの反省や評価を大切に指導を充実させたい。

問12 どうしようか迷ったとき、自分の判断で行動するようにしている

H30 82.5% R1 82.4% **R2 84.3%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。やるべきことをしっかりと自分で行い、その上で自分の意思・判断で行動する力が育てられるよう自主性を伸ばすことで、主体性の育成を図っていきたい。

問13 身の回りの整理整頓は、自分でできている

H30 80.3% R1 87.5% **R2 88.8%** (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しているが、学年によって大きなばらつきがみられる。児童自身が整理整頓の意味をしっかりと理解し、家庭との連携を図りながら指導していくことで、「自分是可以する」という自己肯定感の育成にも繋がっていくと考えられる。

問14 朝は、決まった時間に起きている

H30 83.2% R1 78.7% **R2 88.1%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。問13「身の回りの整理整頓は、自分でできている」、問26「『早寝・早起き・朝ご飯』を守っている」の回答状

況と連動しており、今後とも、家庭との連携に努めたい。

問15 先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている

H30 93.0% R1 86.8% R2 92.6% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。「おはようございます」のあいさつから、「ありがとうございます」の感謝の気持ちへとつなげ、家族の一員、地域の一員としての自覚を育てたい。

問16 係や当番の仕事、そうじなどは、積極的に取り組んでいる

H30 92.3% R1 88.2% R2 94.0% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。今後も、自分や人のためにできることに気づき、自分なりに考え、しっかりと行動し、好ましい社会態度が身につけられるよう取り組んでいきたい。

問17 学級、学校の一員として周りと協調しながら行動している

H30 84.6% R1 82.4% R2 88.1% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。今後も、よい人間関係を築けること、いろいろな人と協調・協力できること、ルールや道徳をしっかりと守り規範意識の育成が図られるよう努めていきたい。

問18 地域の行事に参加している

H30 74.1% R1 72.8% R2 70.2% (△)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。今年度は感染症対策のため、地域のような行事が中止となった。放課後や休日にゆとりの少ない児童も多いが、今後も、学校・家庭・地域が一体となって、お互いに深く関わり合いながら、地域行事参加の効用について保護者への啓発を引き続き実施したい。

問19 先生は困ったり悩んだりしたときには、相談にのってくれる

H30 85.8% R1 89.0% R2 92.6% (○)

肯定的な回答割合が昨年度より増加している。教師と児童一人一人の人間関係をより望ましいものにするためには、教師から認められることを喜びと感じたり、学級にいることへの不安感が取り除かれることによって、大きく変化する。今後も、児童が相談しやすい雰囲気をつくるとともに、学級担任や養護教諭、SCなどと連携しながら、日常生活の把握に努めていきたい。

問20 学校へ行くのが楽しい

H30 76.8% R1 80.1% R2 82.1% (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加しているものの、約2割の児童が否定的な回答をしている。学校への回避感情の割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向があり、主な要因としては「授業」、「友人関係」などが挙げられるが、学校への回避感情と学級への所属感、自己肯定感との相関も高いと考えられる。今後も、教師と児童、児童同士の間人間関係づくりを基盤として、学級への所属感、自己肯定感、自己有用感を高めていきたい。

問21 事故などにあわないよう、いつも気をつけている

H30 97.9% R1 94.1% R2 96.3% (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。交通事故の危険予測と回避に関する理解や交通安全の啓発を促す取組を通して、今後も、日頃の生活の中で意識できるよう、様々な機会を通じて、継続的に安全教育に取り組みたい。

問22 避難訓練などは、真剣に取り組んでいる

H30 94.4% R1 95.6% **R2 97.0%** (○)

肯定的な回答が昨年より増加している。現在、年間を通じて実施しているが、今後も、学校、家庭、地域との連携協力を図り、発達段階に応じて、児童一人一人が災害に適切に対応する能力を確実に身につけられるよう、学校教育活動全体を通じて、体系的、計画的な指導を図りたい。

問23 いじめはどんな理由があってもいけないことである

H30 95.8% R1 97.1% **R2 97.7%** (一)

肯定的な回答割合は昨年より上昇しており、ほとんどの児童が「いじめはいけない」と考えている。今後も、いじめを許さない態度、思いやりのある心を育むよう人権教育、道徳教育をより一層推進したい。

問24 本をよく読んでいる

H30 82.3% R1 85.3% **R2 87.2%** (○)

肯定的な回答が年度ごとに上昇している。その要因として、毎週継続しておこなってくださっている「本の読み聞かせ」、学校図書館サポーターの支援、「多読賞」の表彰等、読書の奨励が考えられる。今後も、ボランティアの方々、学校図書館サポーター等と連携し、読書好きの児童を育てていきたい。

問25 テレビ、ゲーム、スマホ等は約束を守って使用している。

H30 85.3% R1 84.6% **R2 90.3%** (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。情報モラルの指導は、学習活動の様々な場面での適時、継続的な指導が必要となってくる。今後も、学校教育活動全体を通じて、事例やタイミングを工夫しながら、取り組んでいきたい。

問26 「早寝・早起き・朝ご飯」を守っている

H30 80.2% R1 81.6% **R2 88.8%** (◎)

肯定的な回答割合が昨年度より大きく増加している。今後も、児童の外面に表れた行動や習慣から、基本的な生活習慣の確立の度合いを見とるとともに、児童に基本的な生活習慣の重要性を認識させ、発達段階に応じた一貫した指導を家庭と連携しながら、計画的、継続的に取り組んでいきたい。

問27 学校でのできごとを家でよく話している (R1より新設)

H30 質問なし R1 77.9% **R2 84.3%** (◎)

昨年度新設の質問項目である。肯定的な回答割合は昨年度より大きく増加している。児童の学年が上がるにつれて、保護者と話す機会も少なくなっていく傾向にあるが、家庭で児童との会話の時間を増やせるような話題づくりができるように努めていきたい。